

中学校区におけるめざす子ども像	自らを律し、自ら学び続ける子
令和7年度 学校教育目標「明るいまえと元気なあいさつのできる素敵な学校」 めざす児童像「輝く子」 ○人を思いやる子 ○協力する子 ○ルールを守る子 <重点目標> 1 毎日楽しく通学し、学ぶことができる学校づくりのため、チーム力を生かした職員間の共通理解・意思統一・情報の共有化・対応の統一を実現する。地域や家庭、関係諸機関とともに連携しながら課題解決・健全育成を進める。 2 児童の豊かな心と健やかな体を育成するために、計画的・継続的な取組を推進する。 3 児童の総合的な学力向上のため、主体的・対話的で深い学びの具体化をめざす。職員はそのための指導力を向上させ「誰もが安心して楽しく学びあえる」授業・学級の実現を図る。(基礎・基本の定着を確実に、特に学力低層へ継続的な指導を行う)	

確かな学びの現状 【知識及び技能】国語科における「読解力」及び「記述力」については若干改善の兆しがあるものの、「適切に内容を把握」することや「自らの考えを論理的に記述」することに課題がみられる。また算数科においては80点以上の上位層が8.9%と少数であり、算数科を苦手としている児童や算数科の授業に興味関心を持っていない児童が多数存在する。また、既習事項の定着に課題があるため、「わかっていないところに新しいことを学ぶという負のスパイラル」が発生していると考えられる。 【思考力・判断力・表現力等】全学年実施の研究授業や公開授業、さらに教職員のグループ研修により、堺版授業スタンダードを基礎とした授業が展開され、「他者と話し合う活動を通じて自らの考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる」と回答した児童が80%に達している。しかし複数の情報のなかから必要な情報を的確に見つけ出す思考力や、自らの考えをその根拠を明確にしながら、他者に対して論理的に表現する力に課題が存在する。 このような現状を改善していくために、すべての教職員が学びにおける方向性を共有し、以下のような具体的な取り組みを継続的に実践していきたい。	豊かな心・健やかな体の現状 【豊かな心】 ・全クラス参加の朝のあいさつ運動に取り組み、進んであいさつができる児童が増加している。 ・R6年CBTのアンケート調査結果(3年以上平均)では、「自分のことを大切に思うか」の項目で、88%と自己肯定感が高い。しかし、「いじめられたり、いじめを見たりしたときに、先生や家族、友達、相談できるなどに相談することができずか」は72%と低く、周りに相談し課題解決する力や仲間づくりの弱さが課題である。 【健やかな体】 ・元氣よく遊び運動する児童を増やすために、各クラスに配給するボールの数を運動用具を増やしたり、運動場にミニバスケットボール用のコートを整備したりするなど、運動場の環境をよりよくしている。その結果、休憩時間に運動場へ出て遊んだり運動したりする児童が増加傾向にある。学校教育アンケート(児童)では、「体育での『深西サーキット』やなわとび、休み時間の外遊びなどいろいろな運動に取り組んだ。」において、肯定的評価が78.2%と、約8割の児童が休み時間以外へ出て遊んだり運動していることが分かる。 ・昨年度の新体力テストの結果より、すべての学年で堺市の平均を上回る種目が増加した。 ・保健委員会の児童を中心とした生活調査を行うことで、清潔で健康的な生活を児童に意識させることができた。 ・夜遅くまで起きている児童が多く、遅刻する児童が増加傾向にあるため、規則正しい生活のリズムの確立が望ましい。朝会や学期目標の設定を通して指導し啓発している。
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)				
								学校関係者評価	児童評価			
確かな学力の向上	総合的な学力の向上	研修テーマ 「子どもが主役の探求的な学びへ～伝え合う力を基に～」に向けて	★国語科を中心として「言語力(書くこと・読むこと・話す聞くこと)」を育成する。 ・つけない力を明確にした授業改善 ・朝の学習・・・水・金曜日 ・研究授業・公開授業・グループ研修	「となりの席の人やクラスで話し合いながら楽しく学習した。」で肯定評価80%	学校教育アンケート 研究授業 公開授業	1月 6月・10月・11月	A	A	A	・本年度の研修テーマのキーワードとして「子どもが主役」「探究的な学び」「伝え合う力」がある。「となりの席の人やクラスで話し合いながら楽しく学習した」は肯定評価が88.7%だった。 ・「子どもが主役」探究的な学びに対しては、研修討議会を繰り返す中で成果と課題が見られた。学校教育アンケート(児童)「授業の内容は、よく分かる」では、87.4%の児童が肯定的回答であった。しかし、基礎・基本が定着していない児童も多く、「伝え合う力」の育み方を今後さらに検討を深めていく。 ・安心して学べる授業環境、UDの知見を活かした授業づくりについては、「授業の内容はよく分かる」の肯定評価が87.4%だった。	・授業の様子を見ると、子どもたちがしっかりと落ち着いて学んでいることがうかがえます。 ・先生方がUDの視点から、様々な配慮をされている。安心して学べる授業環境が実現しています。	
		「堺版授業スタンダード」「ユニバーサルデザイン」を活用し、基礎学力の定着をめざした授業の実施	●UDの知見を活かし、安心して学べる教室環境を整え、全員が楽しく「わかる」ことができる授業をめざした実践を行い、学びに向かう力を育成する。 ・「学習規律(10か条)」の徹底により、学ぶ姿勢の確立をめざす。 ・朝の学習(金曜日)・・・読解ワークの実施 ・算数の基礎基本の習熟への取り組み交流	「授業の内容は、よく分かる。」で肯定評価80%	学校教育アンケート 「学習規律(10か条)」ふりかえり ユニバーサルデザイン チェックシート	1月 毎学期	毎学期	A	A	・探究的な学びに向けて、ICTを活用した授業実践に取り組み、各学級でタブレット端末を1日1回程度使用している。 ・全学級で週2回「朝の読書」を実施し、週1回の「図書の日」を確保している。読書キングの掲示・表彰を継続することで、特に低学年では読書キング達成が前年度より増加している。しかし、堺市学園の結果から伺えるように高学年の読書離れが顕著である。また、感想を書くことに抵抗を感じる児童も多い。学校司書と連携し学級文庫の整備を進めていく。 ・全学級で自主学習ノートに取り組み、校内掲示や学級での紹介により、意欲的に取り組む児童が増えている。今年度より、内容を「基礎基本型」「探求型」の二つのメニューに設定した。自主学習コンテストでは、優秀賞の作品を児童自身が鑑賞し、コメントを書くことで、多様な学び方への気づきが広がっている。	・個別最適な学びの中で1つの手段として、児童が進んでICTを使用する授業が実践された。 ・高学年では発表資料の共同編集や意見交換ツールの活用により、児童同士が考えを共有し合う場面が増加した。 ・「学校教育アンケート(児童)「読書キング(手帳・読書ノートもふくむ)に取り組んだ」の項目での肯定的回答が、前年度より10%より、52.8%となった。学校全体として取り組んだことが児童の意識付けとなっている。しかし、学校教育アンケート(保護者)「お子様は、読書をするのが楽しいと言っている」の項目では、前年度より10%下回り、50.8%となった。学校・家庭も巻き込んだ取り組みを検討し、啓発を進める。 ・学校教育アンケート(児童)で「週1回は、自主学習ノートに取り組んだ。」で肯定回答は73.3%だった。自主学習コンテストは毎学期行い、優秀作品を見て話し合うことで、自らの学びに活かす意欲を育てることができた。	
		教育ICTを有効に活用した指導法の工夫・改善	・ICT機器(電子黒板・タブレット・デジタル教科書など)を活用したわかりやすい授業の工夫 ・ICT端末の活用頻度を増やす。	「タブレットや大型テレビ(デジタル教科書)などを使って学習するとわかりやすい。」で肯定評価80% 1日に1回程度タブレットを活用した授業を実施	学校教育アンケート 実施報告	1月 毎学期	1月 毎学期	A	A	・一人一台端末を活用した授業が行われており、個別最適な学びをめざされていることが伝わってきます。 ・読書離れは、社会的な課題でもあり解決するにはハードルが高いと思います。その中にあるので、学校が継続して取り組んでいってほしいです。		
		読書指導の充実による「本を読む生活」の実現	・朝の読書(火・木)や図書時間の確保、読書手帳の有効な活用により読書活動を推進する。 ・学級文庫を整備する。 ・読書に対する意欲向上につなげるため「読書キング」達成状況を掲示する。 ・音読指導を継続する。 ・学校司書や図書サポーターとの連携を図る。	「読書キング」の表彰の状況 「読書キング」(読書手帳・読書ノートもふくむ)に取り組んだ。」で肯定評価が80%	「読書キング」表彰 学校教育アンケート	1月 毎学期	1月 毎学期	B	B	・学校として、規範意識を育む努力をしていただいていることは分かります。 ・「安全・安心」な学校を実現するため、先生方はよく努力してくださっています。子どもの意識が育つよう願っております。		
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	自主的な学習習慣の定着(自主学習ノート)	★「家庭学習の手引き」をもとに、家庭と連携しながら、自主的に学習する習慣を定着させる。 ・自主学習ノートの校内掲示 ・自主学習コンテストを開催し、意欲的に自主学習に取り組めるようにする。	全学年(1年生は後期から)・全学級で全員が自主学習ノートに取り組む。 「週1回は、自主学習ノートに取り組んだ。」で肯定評価が80%	提出率 学校教育アンケート	毎月 1月	毎月 A	A	・学期に1度のペースで全児童が参加する「あいさつ運動」を行った。また1学期の目標を「あいさつ」に絞り、児童があいさつを意識できるような取り組みを続けていることで、自らあいさつができる児童が定着している。 ・1学期はあいさつ、2学期は時間、3学期は学習という生活目標を設定し、朝礼などで児童に意識付けを行った。今年度より月の最終週に「遅刻ゼロ週間」を設定し、朝礼や校内放送で児童に呼びかけるなどの取り組みを行った。時間に対する意識を高めるよう取り組みを行っている。 ・児童会活動でドッジボール大会と会った。百人一首大会を実施した。各学級で練習に励み異学年交流の場となっている。	・子どもが自主学習ノートを利用して、自分の興味関心に沿った学びを進めていることは、大いに評価できると思います。 ・学校として、規範意識を育む努力をしていただいていることは分かります。 ・「安全・安心」な学校を実現するため、先生方はよく努力してくださっています。子どもの意識が育つよう願っております。		
		生活習慣の定着と、思いやりのある心と態度の育成	●「豊かな心」の育成をすすめる中心的な取組としての「あいさつのできる子ども」の育成 あいさつ運動に取り組む。 ●生活習慣の改善。睡眠時間の確保。朝食を毎日とるように意識づけを行う。 ★学習規律(チャイム着席)、学習習慣、生活習慣等の定着に向けて、すべての根底をなす規範意識を育成する「学校生活のきまり」の徹底 ・ABCG作戦の実施	「子どもたちは、すすんであいさつができるようになってきている。」で肯定評価が80% 生徒指導アンケートの肯定評価80%	学校教育アンケート	1月 毎学期	1月 毎学期	A	A	・学校アンケート(児童)の「すすんであいさつができた」の肯定回答は90.3%であった。しかし、学校教育アンケート(保護者)では、前年度より12%下回る59%だった。地域の方々にもあいさつが減ったことを懸念される言葉をいただいたことも踏まえ、「あいさつ運動」の取り組みの充実等、学校・家庭・地域を巻き込んだ取り組みを行う。 ・学校アンケート(児童)の「社会のルール、学校のルールを守ることができた」の肯定回答が80.8%であった。目標値はクリアしているが、前年度より10%下回る。ルールを守ることが徹底されないで怪我や事故につながる。児童一人ひとりの危機管理意識を育てていく。 ・学校アンケート(保護者)では「学校はいじめのない学校、学級づくりに取り組んでいる。」では、65%であった。前年度より微細に上昇しているが、児童の意識は微細に下降している。「いじめは許さない、許されない」という意識は、常に教職員も児童も持ち続け、「安全・安心」な学校づくり		
		体力的な向上	・全クラスで体育の最初の時間に「深西サーキット」を実施し、基礎体力の向上に向けた取り組みをする。 ・全学年で「体育検定」実施し、休み時間以外へ出て運動したりする習慣を身に付けさせる。 ・自分の体のことについて興味・関心を高める。 ・3年生以上で保健の授業で健康な生活を送るにはどうすればよいかを考える。 ・食育、栄養指導、保健指導、健康指導の推進	「体育での『深西サーキット』やなわとび、休み時間の外遊びなどいろいろな運動に取り組んだ。」の肯定評価が80%	授業での振り返りの言語化の確認(体育カード) 学校教育アンケート	実施後	1月 毎学期	1月 毎学期	A	A	・「安全・安心」な学校を実現するため、先生方はよく努力してくださっています。子どもの意識が育つよう願っております。 ・新体力テストの結果より、男女ともに多くの種目で堺市の平均を上回る数値が見られた。また、大阪府の平均を上回る数値や、昨年比で倍々上がったという。なわとび週間等の取り組みの実施や、休み時間での外遊びなど、運動に積極的に取り組む姿が見られる。 ・栄養教諭と連携した食育指導、養護教諭と連携した保健指導を行い、健康に生活を送るための児童の意識が高まっている。	・授業や休み時間に運動することを子どもが楽しんでるように思います。
		地域組織との連携と地域人材・の活用による開かれた学校づくり	・見守り隊等の地域組織との連携により、児童の安心安全に向けた体制づくりに取り組む。 ・地域人材の活用と連携による教育環境の整備をすすめる。	「学校は、見守り隊などの地域組織と連携や、地域行事への参加などを通して、地域に親しみを持つ児童を育てようとしている。」で肯定評価が80%	学校教育アンケート	1月 毎学期	1月 毎学期	A	A	・児童は、地域の見守り隊のおかげで、事件・事故なく安全安心に登下校ができています。また、見守り隊の方が登下校中の児童に「あいさつをしてくださるので児童の安心感により一層つながっている。 ・地域人材の活用として、2年生の町探検・4年生の深井西自主防災会と連携した防災学習で関わっていただいている。 ・学校通信・学年通信を活用して情報発信している。また、HPでも学習の様子を更新している。特に、修学旅行や臨海学校などは現地での様子や動画を頻りにUPしアクセス数を増やした。	・学校は、見守り隊などの地域組織との連携や、地域行事への参加などを通じて、地域に親しみをもつ児童を育てようとしている」で肯定評価が73%だった。 ・今年度も2年生の町探検や4年生の防災学習で、保護者や地域の方に関わっていただいた。また、学校花壇の整備や1年生の児童のあさがお植えのお手伝い、PTAふれあい清掃での校内美化へのご協力もいただいた。 ・学校教育アンケート(保護者)の「学校は、見守り隊や地域の皆さんと連携して、安全安心な学校生活を送るための児童の意識が高まっている。」で肯定評価が70.7%だった。来年度も引き続き、学校通信やHPへの日々の学習活動の情報発信を通して、保護者や地域との連携を図ってきたい。	
(地域協働)	信頼される学校	積極的な情報発信による、教育活動への理解と協力の獲得	・学校通信・学年通信の活用 ・保護者連絡ツール「letoru」の活用 ・ホームページの積極的な更新を通じて学校の情報を発信する。	「学校では学校通信やHPなどを通して、保護者や地域に対し、情報発信に努めている。」で肯定評価が80%	学校教育アンケート	1月	A	A	・学校は、保護者・地域と協力しながら、子どもを教育してくれていると思います。 ・行事における児童の姿に先生方の指導の素晴らしさがうかがえる。先生のご協力に敬意を表します。お忙しい中、発信いただき感謝します。			
		校長より(年度末)	・学校にとって最も大切なものは「安全安心」であることを学校運営方針の根幹に位置付けてまいりました。「安全」面につきましては学校内における重大な事故やケガは発生しませんでした。常に細心の注意を払いながら学校安全に引き続き取り組んでまいりたいと思います。また「安心」面については、子どもが安心して授業が受けられる環境整備をはじめ、「友人関係におけるトラブル」や「いじめ事案」につきましては、早期発見、早期指導、早期解決をめ	学校関係者評価者から(年度末) ・学校協議会を通して本校児童の抱える様々な課題がことはよく認識している。そのなかにあつて先生方は子ども保護者に寄り添い、継続的な指導を行っていただけており、その成果が校内における子どもたちが落ち着いて学んでいる様子にあらわれていると思う。その努力に感謝いたします。								